

第12期スマートクルーズアカデミーレポート



平成29年9月26日～10月1日

<横浜＝釜山＝清水＝横浜 5泊6日

at ダイヤモンド・プリンセス>

主催:大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室

共同企画:全国クルーズ活性化会議

クルーズ・アカデミーの概要

第12期 スマート・クルーズ・アカデミー (2017年第2弾) ＜横浜＝釜山＝清水＝横浜 5泊6日 at ダイヤモンド・プリンセス＞

【ダイヤモンド・プリンセス】



- 乗客定員：2,706人
- 船籍：英国
- 就航：2004年(2014年3月改装)
- 総トン数：115,875トン
- 全長：290m
- 全幅：37.5m
- 航海速力：22ノット(41km/h)

【行程】

No.	日時	寄港地
1日目	9/26(火)	横浜
2日目	9/27(水)	(終日航海)
3日目	9/28(木)	釜山
4日目	9/29(金)	(終日航海)
5日目	9/30(土)	清水
6日目	10/1(日)	横浜

スマートクルーズアカデミーの趣旨

★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

■ INDEX

第1部<乗船前と乗船時の感想>	1
(1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ	1
(2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った!	2
(3) 申し込み後、乗船日前夜の感想	3
(4) クルーズ客船が目の前に見えた!大きさに驚きの連続。期待感が膨ら む	5
(5) 乗船直後の感動	6
第2部<クルーズ船>	8
(1) 船内施設(ハード面)の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)	8
(2) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフ ェ・ハンバーガーバー・ピザバー・アイスクリームバー)、サービス・ オペレーション(キャビン清掃、ホテルレセプションサービス、カジノ、 その他船内の各部門オペレーション)	9
(3) 船内SHOW, エンターテイメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プ ロダクションショー、落語)	11
(4) 船内スポーツ・体験施設・内容の感想(泉の湯、ジャクジー、プール、 ジムほかスポーツActivity)・体験型イベント(ワインテイasting・ フラダンス・社交ダンス・プールサイドダンス・バルーンドロップPARTY など))	13
第3部 <各港での対応及び魅力>	15
(1) 乗船・下船港(横浜)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応	

の感想など)	15
(2) 釜山港の感想(乗船下船時対応の感想、港地の魅力)	16
(3) 清水港の感想(乗船下船時対応の感想、港施設・博物館見学、寄港地の魅力)	18
第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー>	21
(1) 学生提言：事前準備から、発表までの感想、大学間交流としての意義	21
(2) 学生提言「クルーズで訪れる！日本の港の過ごし方」についての感想(各班の発表を聞いての感想)	22
(3) クルーズ活性化会議プレゼン「クルーズ船誘致と地域活性化」・パネル討論の感想	24
(4) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治体との交流会、スポーツACTIVITY大会、フォーマルナイト、夜の交流会など)についての感想と今後の要望	26
第5部 <地域活性化・クルーズ振興>	29
(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想(国・自治体政策のあり方など)	29
(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしむけての若い世代からの視点)	31
(3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想	34

<注>

各項における本文冒頭の番号は、番号ごと同一の学生の意見・感想となります。また、学生の属性は以下のとおりとなっております。

No.	属性	備考
1	東京工業大学（修士2年男性）	（クルーズ3回目：第8期マリナー、第9期ダイヤモンドプリンセス）
2	東京工業大学（修士2年男性）	（クルーズ3回目：第8期マリナー、第9期ダイヤモンドプリンセス）
3	東京工業大学（修士2年男性）	（クルーズ3回目：第8期マリナー、第9期ダイヤモンドプリンセス）
4	東京工業大学（修士1年男性）	（クルーズ2回目：第9期ダイヤモンドプリンセス）
5	東京工業大学（修士1年女性）	（初クルーズ）
6	東京工業大学（修士1年男性）	（初クルーズ）
7	東京工業大学（学部4年男性）	（初クルーズ）
8	東京工業大学（学部4年男性）	（初クルーズ）
9	東京工業大学（学部4年男性）	（初クルーズ）
10	創価大学（学部5年女性）	（初クルーズ）
11	創価大学（学部4年男性）	（初クルーズ）
12	創価大学（学部5年女性）	（初クルーズ）
13	創価大学（学部4年男性）	（初クルーズ）

第1部 <乗船前と乗船時の感想>

(1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ

1. 昨年のダイヤモンドプリンセスで非常に良い体験をさせていただいたので、今回の話を聞いてすぐに是非乗船したいと思った。唯一の不安点としては、下船した翌日が内定者懇談会になる事だが、なんとか体力を持たせられるだろうと思う。
2. 担当教官から誘われた瞬間から是非行きたいと思っている。今回は真夏のシーズンから少しずれているが、秋の気配を感じられるクルーズも楽しそうだ。そうと決まったら、就職活動が長引かせないように頑張ろう。
3. ダイヤモンド・プリンセスには一度乗船済みであり、クルーズは三回目なので、不安は何もない。逆に有料施設以外はほぼ経験済みなので、船の上で何をしようか考える。すでに一度経験したこと（ショー、プール、カジノ）をするか、まだ経験してないこと（有料施設など）をするか。
4. 自分はダイヤモンドが二回目だったのであるが、初回は終日クルーズが無かったため、比較的忙しいクルーズであった。そのため二回目のクルーズである今回には船上でゆっくりとした時間をすごせるのではないかと期待があった。
5. クルーズに関しては豪華だけど、船中でやることなく暇そうだなと思う。お金持ちが時間をお金で買うようなイメージを抱いている。また、クルーズのことをあまり知らなかったので、不安感を抱いている。正直なところ、あまり楽しめずに日数が経ってしまうのが怖く感じている。
6. ホテルとは違い、食事、お酒、チップなどの料金設定が複雑そうで、手続きで非常に手間取りそうだと感じる。また外国船籍なので、もしも咄嗟に英語が理解できず、コミュニケーションがうまく取れなかった場合は食事、買い物等で余計なお金を取られるのではないかと心配になる。
7. まず、お金がかかりそうであることが頭によぎる。次に船酔いしそうで、クルージングが楽しめるか不安である。しかし、きらびやかなクルーズに乗れるなんていい経験が出来ると思い、期待で胸いっぱいである。船の中で新たな友達が出来たらいいなと思う。
8. 正直に申し上げるとゼミの付き合いでなければ、すぐ断る案件だ。クルーズはいわゆるブルジョアの乗る船で私には縁のないものだと思うし、仮に将来的にそう



いう身分になったとしても、クルーズに乗らず貯金をして将来の資金を蓄える気がする。

9. クルーズは富裕層の人々が乗るものであり、乗客は皆おしゃれに気を遣っていて常に正装でいなければいけないというイメージがある。また、普段なかなか乗ることができないものなのでとても遠い存在のものだ。
10. 先生からお話を伺い、「行ってみたい」と即座に思い立ち、友人を誘った。
11. イベントなどは特になく、大きい船の上でただ海の上を進んでいるイメージである。
12. 数年前に北欧で一度クルーズを経験したが、船旅特有の良さなどを知れなかったため、いつもの旅行の延長線上という印象が強い。しかし、家族と行くのと同世代の人たちと行くのでは異なる発見があると思うので、研修という面からで楽しみである。
13. 外国船であることを考えると英語が話せなければ楽しむことは難しく、食事の注文することも大変なのではないだろうか。アメリカに研修に行った時のように日常生活することさえストレスに感じるのではないかと不安に思うことが多くある。また船の中で退屈な時間がありそうだ。



(2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った！

1. 昨年のスケジュールと比べると下船する寄港地が少なく、寄港地での視察や散策が好きな自分としては少々残念だ。しかし、その分終日航海日が1日多いため、今回はダイヤモンドプリンセスの施設やイベント、アクティビティを存分に体験しようと思う。去年はぶらついているだけの時間が長かったので、しっかりイベントをチェックしよう。
2. 寄港地が釜山と清水だけというのは正直物足りないかもしれない。その分、終日クルーズの時間が長いので船内でのアクティビティをしっかり楽しめそう。パンフレットには初心者向けと書いてあるが、むしろクルーズ経験者向けのプランのようにも感じる。
3. 寄港地が少ないのは残念だが、その分船を楽しもう！釜山も清水もすでに行ったことがあるが、前は観光という観光はできなかったもので、しっかりどこに行くか決めていこう。
4. 寄港地が前回と比べて少なく、初の終日クルーズがあるので船の上でゆっくり楽しもうとおもった。また、前回と何か違ったこと、できなかったことをやりたいと思っている。釜山は前は一人で観光だったため。今回はみんなで回るのが楽

しみだ。

5. 予想以上に設備や食事が豪華だと初めに思う。船中でここに行きたい・どんな服やドレスを持って行こうかなとイメージが湧き楽しくなる。知らない人と話したいと思っており、どのような人（年齢層・外国人率）がクルーズに来るのが気になるようになる。
6. 学生がクルージングに参加できるということが驚きであった。50万円から100万円程度の費用が掛かると思っていたが、数万円で行けるということで、多少奮発すれば友達と国内旅行に行くのと同じ気楽さで行けると考えられる。
7. まさか外国企業が運営するクルーズだと思っていなかったため、船内でのコミュニケーションで英語を使うと思っていない。自分の英語が通じるか不安である。しかし外国船であろうと、船の中で寝泊まりすること自体が初めてなので相変わらず楽しみである。
8. 案外自由な時間が多くあるという印象だ。ゼミ付き合いで乗船を決めたので楽しむという発想がない。こういう設備を提供されても…という戸惑いが正直あり、しかも英語で普段縁のない遊びを…と思うと少し不安だ。
9. クルーズのしおりを読んだら、日中はカジュアルな服装で過ごしていいということが分かり、常に正装でいなければいけないと思っていたクルーズの概要を知る前のときと比べたら少しはクルーズが身近なものに感じられる。
10. 楽しそうなので、早くクルーズ船に乗ってみたい！
11. 思っていた以上に船上でのイベントが豊富で、かつ食事の内容がとても充実しているため期待値が一気に上がってきている。
12. 以前経験した船旅とは全く異なり、船内の詳しいお話や写真を見て、クルーズのイメージが大きく変わっている。また、他大学の専攻の異なる人たちと一緒にワークを行うということで、互いの多様な視点を大切にしながら、実のあるプレゼンになるよう積極的に取り組んでいきたい。
13. クルーズのプログラムの中に自治体の方々に向けたプレゼンテーションがあり、とても不安である。しかし、クルーズの施設やイベントの概要を見たときにその不安を帳消しにするほど内容が充実していると感じた。とても楽しみである。



(3) 申し込み後、乗船日前夜の感想

1. グループ課題のプレゼンテーションの細部が気になってしまい、遅くまで起きてしまっている。せつかくのクルーズなので早く寝た方が良いのは分かっているの

だが、なかなか踏ん切りがつかない。逆に明日からは楽しい日々が待っているのだから頑張ろうと思えてきた。

2. 最近涼しく感じる日も増えてきて、プールに入る際の気温が気になってくる。船内の時間が長い分、デッキで寒い思いをすると楽しさが半減しそう。とはいっても不安材料はそれくらいで、船内でのサービスには昨年満足できるものなので楽しみな気持ちの方が勝っている。
3. 乗船の準備ができてなくてやばい！プレゼン資料も作り終わってない！もろもろ終わってないけど数時間後には船に乗っていると思うとわくわく今回はどんな学生や自治体の人がいるんだろう
4. 昨年の写真を見ながら思い出していた。前回は自治体の方たちとたくさん話せたので今回はどのような人がいるのだろうか、前回は他大学の人とすごくなかよくなり、今でも交流があるので、今回も自分の班以外の他大学の人はどうなのかなのらうかとワクワクしている。
5. 旅に出る前の高揚感で眠れない。明日の今頃には洋上にいるのだなと思うと非常に不思議な気持ちになる。その一方で、忘れ物がないかが非常に気になったり、同室である他大の初顔合わせのメンバーと上手にやっつけられるかが心配になる。
6. 船内での生活に関しては行くまで想像つかない。（実際、行ってからいろいろ必要なものに気が付くことがあった。例えば、スーツ以外にももっとフォーマルな私服を持っていけばよかったなど。）しかし、行く前から想像つくようではクルージングへの楽しみが減ってしまう気がするの難しいところであると感じる。
7. 初めての船の中での生活なので、荷物が準備したもので十分か不安だ。約一週間も家から離れ、海の上で生活することの非日常に不安と期待が入り混じる。ちゃんと当日に、乗船手続きが出来るかすらも少し不安を感じる。
8. クルーズ内でのプレゼンの準備に追われていて考える余裕はない。クルーズという乗り物にどうしてそこまで乗るんだろう？単なる移動手段だろう？と思っているので乗船してその疑問は解消したい。あとトラブルありませんように！
9. いよいよ初めてクルーズに乗ることができるのかと思うと非常にわくわくした気持ちだ。ショーやダンスなどたくさんのイベントを楽しんだり豪華な食事をしたりしてクルーズ生活を満喫しよう！
10. 早く明日になってほしいと思い、わくわくしながら就寝する。
11. クルーズ中は船上でできることを全てやりぬいて全力で楽しもう！



12. 初対面の人たちと一緒に旅行することや、フォーマルな場もあるということで、少し緊張している。周りの方々と積極的に交流を持ち、船旅の楽しみ方や社会人としての振る舞い方を学んでいける機会にしていきたい。
13. 乗船日前夜になり期待と不安が半分半分である。期待の方は単純にクルージングを楽しめることへの期待である。不安の方は、船内での英語によるコミュニケーション取らなければならないという不安と、プレゼンテーションで、チームの皆の足を引っ張らないようにしなくてはという不安である。

(4) クルーズ客船が目の前に見えた！大きさに驚きの連続。期待感が膨らむ

1. 昨年同じ船に乗った事もあり、自分でもビックリするほど平常心だ。平常心過ぎて後輩に「もっと感動しましょうよ」と言われてしまうくらい平常心。確かに目の前にするととんでもなく大きいのだが、感覚としては「おう、久しぶり」くらいの感覚。複数回乗船するとこんなにも心に余裕が出来るものなのか。
2. 横浜港にクルーズ船が停まっているのを見るのはこれで3回目だが、やっぱり圧倒される。この異様に大きい船が浮かんでいるのを見ると旅が始まることを実感できワクワクする。駅から近いのも横浜港の利点の1つだと再確認できる。
3. 2回目だから当たり前だが、見覚えがある！それにしても、こんなに大きかったっけ??1回目のクルーズ（マリナー）のとき（大黒ふ頭）とは違ってバスに乗らずにそのまま乗船できるのはやっぱり楽だなあ。
4. なんとみてもやはり大きいと思ったのと同時に乗ることが現実的になってきたと、わくわく感が最高潮になった。また同じ船に戻ってきたという高揚感。チェックインカウンターを通して真横に出ると大きさに圧倒された。
5. ダイヤモンドプリンセスのロゴが目に入ってきて、優美な形をしていて良いデザインの船であると思う。優雅なクルーズ体験ができそうだなと感じる。大きさに関しては、よく大さん橋に行ってクルーズ船を見ていたためそれほど大きいとは思わない。
6. 率直な感想としては、外から見た船の大きさに関しては想定の範囲内だった。横浜在住で大型客船を見慣れているからだと思われる。なので当日は特に感動はないが、早く船の中に入ってみたいという好奇心はあったのを覚えている。
7. ダイヤモンドプリンセスは、想像していた大きさより全然大きくて驚く。何人収容できるか検討もつかない。船の高さもとても高くて、先輩から事前に教えていただいた施設がどの場所にあるか楽しみである。



8. やっぱりでかいというのが第一印象だ。また船内では電波も通じないので迷子にならないように気を付けよう！一生に一度しかないような経験なので何か得るものがあればと楽しみ。
9. チェックインカウンターを通過してクルーズ船が目の前に見える。とても大きい！大棧橋まで歩く道の途中でクルーズ船が遠くに見えた瞬間からものすごい存在感を感じる！
10. 船の大きさに驚き。これからこの船に乗ることを考えると気持ちが高揚する。
11. 実物の壮大さを目の当たりにして自分の期待は間違っていなかったと確信する。
12. 想像以上に大きく、豪華な船で驚いている。加えて、対応して下さる船員さんや同乗するお客様に外国の方が多いため、英語を思い出せるか少し不安である。せっかくの機会なので、イベントも食事も、他のお客様とのコミュニケーションも全てを満喫していきたい。
13. 遠くからこれから乗る船を見ると、周りの建物が小さく見えてきてしまうほど大きく見える。この船に乗れるとは素直に信じられない。また近くで見ると大きさに圧倒される。学生がこんなに立派な船に乗っていいのだろうかと思問自答したくなるほどだ。

(5) 乗船直後の感動

1. 船外から眺めた姿に加えて船内の内装も変わりなく、1年前と変わらず私の身分には不相応なほどに豪華である。船員さんも、エンターテイメント担当の方などは昨年と同じ方で、改めて2度目の乗船である事を実感する。
2. 前回も同じ印象をうけたが、船の中というよりホテルのロビーのように思える。前回もそうだったが、乗船直後にフロントが混雑しているのが気になる。船員の対応は、フレンドリーさを前面に押し出していないが、決して悪い印象はうけなかった。
3. 自分の記憶どおりの船内。部屋についたら見知らぬキャリーバッグがあり、スタッフに自分たちのものではない荷物があると英語で伝えることができホっとする。
4. 昨年の思い出がフラッシュバックしてきて、見覚えがある内装にホッとする気持ちと楽しむぞと思う気持ち。自分の部屋まで記憶を頼りにたどり着けて、船内をまだまだ覚えていて一安心、今回は移動にあまり苦労しなさそうだなと思う。
5. 船内は想像していたよりもシックで



大人びた感じである。ただアトリウムは非常にきらびやかであると思う。船員さんは真面目な接客態度を取ってくると考えていたが、フレンドリーで愛嬌があって非常に可愛らしいと感じる。船員さんと仲良くなれそうな気がする。

6. 吹き抜けは意外と閉塞感があるイメージを持つ。ビルと比べるのは違うかもしれないが、スペース的に窮屈な気がする。素人考えではあるが、5階より下が船員さんの部屋だと思うので、そこをくり抜いてもう少し高さのある吹き抜けに設計できなかったか考える。
7. まず、改めて振り返るとエレベーターが無いと困るが、エレベーターの数と階層が多い事に驚く。そして階段から壁から何から何まで豪華で非日常の空間に入ったことを実感する。船員さんが皆ニコニコしていて明るいのでこちらも楽しくなる。
8. 想像と違ったのは日本語がまあまあ通じるという点だ。このクルーズにそもそも日本人が多く乗っていたからだと思うが、こちらとしては嬉しかった。あとは船員さんの態度がとても良くて驚いた。ぜひ今後の参考にしていきたい。
9. クルーズ船に乗って最初に見えたのはアトリウムであったが、アトリウムの中央部が5階から7階まで吹き抜けになっていて、その空間の広さに圧倒され、テレビなどでしか見たことがないような高級ホテルの中にいるような雰囲気を感じた。
10. 想像よりも豪華な造りで驚いた。シャンデリアが船内にあるとは思っていなかったもので、とても驚いた。
11. 内装がゴージャスでこの6日間への期待がさらに高める
12. 船内のインテリアや船員さんの対応など全てが素晴らしく、まるで一流ホテルのような華やかな空間に、非常に興奮している。同乗されているお客様も年配の方々が多く、私たちのような学生はなかなか来れない場所なのだと再認識した。
13. 乗船する前は、日本語が全く通じないスタッフしかいないと思っていたが、実際乗ってみると日本語を話せるスタッフの方が多い。また、食事の際にはユーモアのある接客で食事をより楽しむことができ、レベルの高さに脱帽である。



第2部 <クルーズ船>

(1) 船内施設(ハード面)の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)

1. 5つあるメインダイニングが全て、調理場らしき通り抜け不可スペースと接している事に気付いて、当然ながら効率的な配置が為されているんだなと感じた。全体的には、豪華ながらも落ち着いた空間が演出されているように思えた。
2. 6階が通り抜けできないのが不便だ。特に6階にはレストランがあり毎日行き来するだけに不満を覚えた。昨年もそうだったが、エレベータの反応が悪いようにも感じた。船内設備がほぼ同じフロアに集まっていたのは場所を覚えやすかった。
3. 前回ダイヤモンド・プリンセスに乗船したときは夏だったので何も違和感を感じることはなかったが、プールがありすぎるような気がした。春や秋は屋外のプールの需要は小さくなることが予想されるし、実際に今回は前回よりもプールがすいていた。季節ごとに変動する乗船客のニーズにハード面でこたえるのは難しそう。
4. 泉の湯からみた景色が非常に良く楽しむことが出来た。自分は二回目であったので迷うことなどはなかったが、船上ではインターナショナルレストランへの行き方などを何度か他の乗船客にきかれたため、6階など船の前後が繋がっていない場所は迷いやすい印象を受けた。
5. 船内施設は一度7階に降りないとたどり着かない場所が多く初め混乱した。各階ともトイレが少なかったかなと感じた。バー・カジノ・プール等の施設は非常に綺麗で整っていると感じたが、スポーツエリア(特にバスケットコート)は狭すぎると感じた。
6. 船内エレベーターのボタンが紛らわしいと感じた。階数が表示してあるだけの文字盤の方がボタンだと勘違いしそうになったし、実際押し間違いをしている乗船客を3回見た。航海中にデッキのペンキ塗りをしていて、常にデッキの景観維持に気を配っているのは感動したが、それであるならばバスケットボールコートのネットも修復してほしいと思う。
7. 高いエリアに存在するスカイデッキ、パターゴルフ、バスケットコートにはどうしてもスムーズに辿りつくまで慣れなかった。また、船内のトイレの場所が私には分かりづらく、地図を見てもスムーズにトイレの入口に辿りつけなかった。
8. レイアウト云々はよくわかりませんが、すごく使いやすかった。困ったことといえばクルーズ内が広すぎるせいかエレベーターが混みすぎて階段で登るにも長す



ぎてクタクタだったり同じ階でも迷ったりと広すぎるゆえの弊害がある。運動の意味では良い。

9. レストランやバーなどの場所が船内の地図を見ても分かりづらく、どの施設に行くためにはどのエレベーターや階段を使えばいいのかがなかなか覚えられなかった。エレベーターを呼んでから来るのが遅くて不便だった。
10. プールやジャグジーなど、船内でのアクティビティが充実していたため、6日間のクルーズ船で飽きることがなかった。
11. 非常に綺麗でずっとここにいたいと思えた
12. 内装は海の上にいることを忘れさせるホテルのような空間であり、外装は海を活かしたレイアウトになっており、利用者のあらゆるニーズを満たしていると感じた。また、日本人顧客が多いためか、所々に日本らしいインテリアもあり、心落ち着く空間であった。
13. 船内は船の中とは思えないほど豪華であった。まるで高級ホテルに泊まっているのではないかと錯覚するほどに。また、シアターやバスケット、クラブなど、様々なことを経験できるようになっており、老若男女問わず楽しめるようになっていると感じた。

(2) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフェ・ハンバーガーバー・ピザバー・アイスクリームバー)、サービス・オペレーション(キャビン清掃、ホテルレセプションサービス、カジノ、その他船内の各部門オペレーション))

1. ダイニングでの食事はもちろんのこと、ハンバーガーバーやピザバー、アイスクリームバーで無料で頂ける食事、普段食べているそれと比べて非常に美味しかった。食事以外では、カジノがピリピリした雰囲気ではなく和やかな雰囲気だったおかげで遊びやすかった。
2. 毎回の食事は質が高く、満足している。ハンバーガーバー・ピザバー・アイスクリームバーが気軽に利用できる割に、味もよく個人的に気に入っている。自分の部屋も含めて船内は清潔で快適だった。日本国内では利用できないカジノも初心者も安心して楽しめると思う。
3. 一度乗船していることもあり、レストランのメニューで何がおいしいか、ルームサービスの注文方法などの勝手がわかっていたので前回よりも快適に楽しむことができた。ただ、学生からするとバーが閉まるのが早すぎる。



4. 食事はハーフポーションなどが出来多くの種類を味わうことが出来て良かった。アイスやハンバーガーバーも自分の食べたい量などを伝えるとカスタマイズをしてくれて非常に満足でした。シガーバーのバーテンダーさんは非常に丁寧にシガーとはどのようなものなのか、どのように吸うのかなどを教えてくれとても楽しい時間を過ごすことが出来た。
 5. レストランの食事内容は素晴らしく良かった。味はもちろんのこと、提供されるスピードが速いこと、クルーに愛嬌があり楽しませてくれるのも魅力的だった。ハンバーガーやピザが無料であるのも素晴らしかった。サービス・オペレーションに関しては迅速に対応してくれたため不満はない。
 6. 4日目だけ昼間に行われた麻雀の集いに参加してきたが、参加していたご婦人たちの話では、「毎日開催場所が変わって混乱する。」
「場所を貸し出している店員の態度が悪い」などの話を聞いたので、改善した方がいいと思う。あと麻雀に適した机とマットがないので非常に不便である。毎日コンスタントに10人前後集まっているらしいので需要はあると考えられる。
- 
7. いつでもハンバーガーなどが食べれるのはとても満足した。ルームサービスでいつでも食事や飲み物が出ることにも驚いた。カジノは日本国内では出来ない施設なのでかなりの時間利用した。サービスで部屋にチョコを毎回置いてくれていたが、全部を食べることは出来ず申し訳なかった。部屋の中での映画は、字幕や言語音声の選択があると嬉しかった。
 8. フリーフードやフリードリンクがあるのは嬉しかった。船内設備においてもカジノバーなども充実していて楽しかった。難点としては、やはり大人向けのものが多く、子供や老人向けのものとなるとあまりなく、客層によっては楽しめないかもしれない。
 9. レストランでは毎日違う料理を食べることができ、ちょっとおなかがすいたときにはピザ・ハンバーガー・アイスなどを食べることができ夜でもルームサービスで食べ物を頼むことができたので食事に困ることも飽きることもなく色々な食事を満喫できた。
 10. 陽気なクルーが多く、食事中も楽しめた。また、無料で食事できるハンバーガーなども美味しかった。
 11. 食事はどれも美味しかった。とくにハンバーガーバーのハンバーガーと、レストランで提供されたデザートは毎日でも食べたいと思った。その他のサービスも文句のない内容で、非常に快適だった。

12. 好きな時間に食べられるお店が沢山あったので、どうやって全部を楽しむかが難しかった。また、初めてアフタヌーンティーを体験し、海外映画で見るような世界を知れて、とても興奮した。サービスにおいても、些細な要望にも丁寧に笑顔で対応していただき、一流の社会人に間近で接することができた有意義な時間だった。
13. ディナーでは毎日違うものを選べるようになっており、それに加え定番メニューもあり種類が豊富で驚いた。また、日本食もありとてもうれしかった。カジノも始めて行ったが、非現実的な経験ができ、日常と切り離して楽しむことができた。さらに、ピザバーをはじめとしたバーでは、想像以上に質の高いもの提供しており、乗船2日目以降は毎日利用した。



(3) 船内SHOW, エンターテインメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プロダクションショー、落語)

1. プロダクションショーはシアターに全日通い詰めるほどのめりこむ事が出来た。毎日演目が変わるため飽きずに通う事ができて、さらに昨年のクルーズと違う演目と同じ演目が両方あったため、新鮮な気持ちにも懐かしい気持ちにもなる事ができ非常に良かった。唯一の心残りは、昨年見たからという理由でスルーしたダイアン吉日さんの落語が、昨年と違う演目だったらしいという事だけだ。
2. 今回は全てのSHOWを見たわけではないが、適度にカジュアルな内容だったので知識がなくても楽しめるものだった。個人的には6階のピアノ演奏が夜の船内でゆっくり落ち着けるスペースなので、気に入っている。
3. 船内SHOWは、どの国の乗船客も楽しめるようになっているのは改めてすごいと感じた。ただし、2回目の乗船だと既視感もあり、もう少し内容が変わってほしいというのが率直な感想。2回目以降の乗船客が招待されるパーティーでのSHOWを見ることができたのはうれしかった。
4. 昨年の内容と既視感のあるものがあり、もっと大幅に変わっているものが見たかったというのが正直な感想である。2回目乗船の人向けのショーは対象の人数がすくないためどうなのかとも思っていたが、いい意味で期待を裏切られ、非常に楽しめた。
5. 船内SHOWは有名な曲が多く、誰もが楽しめるような構成になっていると感じた。個人的には通訳の方が本当に大事なところを訳して伝えてくれるのが非常に良か

った。また、プールサイドでいきなりバンドの演奏が始まったりと乗客をワクワクさせるような試みがなされていたと思う。

6. 個人的には1日目のショーが一番好きだった。さらに、英語を交えた落語に関しては、プリンセスクルーズの客層にうまくマッチしたプログラムであると感心している。一番大きいホールでも気軽にお酒を飲みながら鑑賞できるとよい気がする。
7. 船内でのショーは綺羅びやかでパフォーマンスのクオリティも高く目を奪われた。また、マジックショーは、テレビでしか見たことのないパフォーマンスを生で見ることが出来たので満足した。バンドでは知っている曲が流れるときに特に楽しかった。
8. 船内SHOWは個人的にはとても楽しかったが、SHOWの中には万人受けしにくいものもあり、SHOWを作る上での大変さなどを思い浮かべたりしていた。劇場の広さ、サービスは問題ないのだが、以前乗った方々の話を聞いているとSHOWの内容が前と変わらず退屈等の声もきいたのでSHOWの演出等を変える努力はどうしても必要である。
9. 初めて落語を見に行ったが、イギリス出身の落語家が落語をやっているすごいなと思い、実際に内容が面白く、日本語と英語の両方で落語をやっている最初に落語についての説明をしていたので誰でも楽しめるようにしていて良かったと思う。
10. 毎日異なった演目のショーが見れたので、飽きることなくショーを見れた。また、出演者と写真を撮ることもでき、嬉しかった。
11. 2日目のプロダクションミュージカルが非常に良かった、それ以外は途中退場した。
12. 一つ一つのショーや演奏が見入ってしまうほど素晴らしく、毎日何のイベントが行われるかが楽しみになった。元々演奏会や舞台に行くのが好きだったので、これだけのショーを無料で見られるなんて、私にとってはこの上ない贅沢であり、幸せな空間だった。
13. ショーは毎日ジャンルの違うもので、毎日飽きることなく楽しめた。初日はライブ形式で、盛り上がる曲から、バラードまで様々な曲を楽しめた。オペラでは、聴いたことのあるような曲が多くあったおかげで、学生の私でも楽しめた。プロダクションショーでは、映像と歌が絶妙にマッチしており、見ていてとても楽しめた。



(4) 船内スポーツ・体験施設・内容の感想（泉の湯、ジャグジー、プール、ジムほかスポーツActivity）・体験型イベント（ワインテイティング・フラダンス・社交ダンス・プールサイドダンス・バルーンドロップPARTY など）

1. 今回初めて泉の湯に入浴した。正直、入浴前には高い料金を払って入浴する価値があるのかと疑問視していたが、入浴してみると船の中で暖かいお湯の浴槽に浸かる事の贅沢さを感じられて、入浴して良かったと思えた。外のジャグジーエリアの特別感と内風呂の窓越しに眺める海も素晴らしかった。
2. 前回利用できなかった泉の湯は必ず行こうと思っていた。結果的に予約して大正解だった。普段から浴場はよく利用するが、それらと比較しても群を抜いて清潔に感じた。ジャグジーもクルーズらしさを楽しめる位置にあり素晴らしい。ジャグジーにつかりながら海が見れないことだけが残念。
3. 前回とは違う体験として、泉の湯に行ったのが印象に残っている。海を見ながら湯船に浸かったり、ジャグジー付きのプールに入ったりと貴重な体験ができた。プールサイドダンスでは、自治体の方や創価大学の学生と踊って、交流を深めることができたのは良かった。
4. 泉の湯に今回は入れたのが印象深い。後方部のジャグジーは太平洋を眺めながら入れるというもので非常に非日常感が強く楽しむことが出来た。少し残念であったのが、つかったまま海を見ることが出来ない点と浴室の窓が色づいていた点である。
5. 泉の湯、ジャグジーは海を見ながら入れたのでとても優雅な体験ができたと思う。プールサイドダンスは、年配の方が多いため大丈夫かなと思っていたがみなさんノリノリで私もスムーズにノリに入ることが出来た。目の前の大きなスクリーンやダンサーさんが盛り上げに非常に貢献していたと思う。バルーンドロップPARTYは人でめっちゃくちゃになり何がなんだかわからないがとにかく面白かった。けが人が出ていないといいなと思った。
6. 体験型イベントに関してはほとんど参加していない。なぜなら、ほとんどがご年配の方を対象としており、自分たちが行っても浮いてしまうので気がひけてしまう。「18歳から20歳の集い」のようなイベントはあったが、「20代の集い」のようなイベントもあるといいかもしれない
7. いつでも使える卓球は気軽に運動できて楽しかった。泉の湯のプールサイドに付いているカーテン付きのイスのカーテンの使い方がわからなかった。泉の湯の温泉の窓が、特殊な加工をされており、景色が綺麗に見えないのは少しさみしかった。プールサイドダンスやバルーンドロップでのダンスは非日常感満載で、解放



感が楽しかった。

8. 船内スポーツや体験施設については私自身あまり使っていない。施設面やサービス面は体験していないのでどうともいえないが、スポーツや体験はやってみないとわからないと思うので問題は人をどうやって集めるかという点で、宣伝方法はさらによくしていった方がいいと思う。
9. 泉の湯では海を眺めながら湯船に浸かるというなかなかできない体験ができとても気持ち良かった。プールサイドダンスやバルーンドロップパーティーでは大勢の人たちと踊って盛り上がることができとても楽しかった。
10. 温泉やプールから海を見る経験は、他ではできないため、貴重な体験ができたことが嬉しかった。
11. プール、ジャグジー、スポーツアクティビティーはとても楽しめて非常に快適だった。ダンスやバルーンパーティーは、あまり乗り切れなかったが一つの経験になるかなと思い参加した
12. ほとんどの時間を海の上で過ごすため時間を持て余してしまうのではないかという不安があったが、様々な施設を体験してみて、全部を満喫するのが大変だなと感じるほど充実していた。また、ほとんどの施設が年齢関係なく楽しめるよう作られているため、様々な世代の人たちと交流しながら楽しむことができた。
13. 船の上から最高の景色を楽しみつつ、プールやジャグジーを楽しむことができた。これは陸では経験することはできず、恐らく船上でしか経験できないであろう。また、プールの近くにバーやビュッフェがあり、水分補給や食事もすぐできる点もよかった。



第3部 <各港での対応及び魅力>

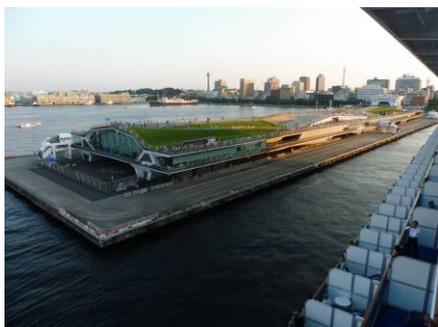
(1) 乗船・下船港(横浜)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応の感想など)

1. コンスタントにクルーズ船が寄港しているからか乗船・下船の手続きがスムーズで、手続きのためのエリアも広く取られていて混み合わない印象を受けた。日本大通り駅を出てから段差ゼロでターミナルまで来られる設計になっているのが非常にありがたい。
2. ターミナルは休憩するスペースもあり快適だった。乗船手続きも簡潔で丁寧なので、適切であると思う。関東に住んでいる人間からすれば、横浜乗船横浜下船は、移動が楽で助かる。港へもアクセスしやすいのも良い。
3. 港の設備はとても充実していると思う。特に乗船前は港でプレゼンの最終打ち合わせをしたが、無料のWi-Fiが当然のようにあって助かった。チェックインをしたり、荷物を預けたりするのも特にストレスなく行うことができ、さすが外国船の寄航が多い港だなという印象。
4. 普段から家が近いためよく行く大さん橋のターミナルとしての機能の充実さに驚いた。昨年自分は釜山乗船であり、横浜港は下船でしか利用したことがなかったので、乗船がスムーズであること、スタッフの人数の多さなどに驚いた。
5. ターミナル施設が非常に綺麗であり、港からは赤レンガ倉庫や象の鼻パーク等が見れ歴史を感じられとともに、クルーズ船から見た光景が海の向こうに様々な施設が見えるという非常に美しいものであった。そのためあまり他の港のことは知らないが非常によく設計された港だと感じた。乗船時の対応は非常にわかりやすくスムーズであった。
6. 横浜の大さん橋ふ頭に関しては、駅から遠いことが難点だと考える。いくら、宅急便で荷物を船内へ送れるとはいえ、初めてクルーズを経験する人は不安だと思うので荷物を持参する人が多いことを考えると大変だと思う。
7. 横浜港のターミナルはとても大きくて驚いた。待合室のイスの数が多く快適だった。無料で水が飲める場所があったので喉が乾いていた私には最適だった。クルーズカードの登録などの対応はとても丁寧でスムーズだった。
8. 乗船時の対応については問題なかったと思う。とまどったのはスーツケースの管理についてである。部屋に行った際に違う乗客のスーツケースがあり対応に困っ



たりした。スーツケースを預ける方や自分で持っていく方もいて対応に大変なのはわかるが気をつけてほしい。

9. 港のターミナル内でパソコンを使うときにWi-Fiが通っていてネットに繋ぐことができたのは良かったが、30分ごとにWi-Fiに接続し直さなければいけなかったのは少し面倒だった。手荷物受付やチェックインであまり待たずにスムーズに進むことができて良かった。
10. 乗船時は、手続きなどが案外簡単なことに驚いた。クレジットカードの登録などを聞いていたため、もっと複雑な手続きが必要なのかと想像していた。



11. 景色がとてもよく、乗船時には気分を高揚させてもらった 施設内も綺麗で快適だった

12. これまで赤レンガなどの観光地には行ったことがあったが、初めて港を訪れて、観光地とはまた異なり、多様な文化が組み合わさった空間がとても素敵だと感じた。また空港と比べて、出国審査や荷物

預かり等がとても簡単で、年配の方々に船旅が支持されている理由が少し理解できた。

13. クレジットカードとクルージングカードを紐づけする際に、私の緊急連絡先が登録されていなかったのですが、丁寧に対応してくださり問題なく乗船できた。また、荷物を預ける際も丁寧に預かり場所まで誘導してくださり、とても助かった。

(2) 釜山港の感想（乗船下船時対応の感想、港地の魅力）

1. 昨年とは違うターミナルでの下船だったが、昨年同様スムーズに下船に関わる手続きが終わり、散策の時間を長く取る事が出来た。露店が並ぶ市場からは古き良き街並みといった印象を受けたが、地下鉄や帰りに立ち寄った釜山駅からは近代都市の雰囲気を感じ取る事ができて、色々な顔を持つ街であると感じた。



2. 日本に比べると対応もそっけなく感じたが、外国だと思えばさほど不満はない。港からバスもすぐ利用できるのは良かった。昨年と比べ、両替所の場所が分かりやすくなっていると思った。地下鉄で戸惑っていると、日本語ができるスタッフがすぐに近づいて対応してくれたことに安心した。

3. 昨年とは違う場所への停泊ではあったが、シャトルバスで市場があるところまで連れて行ってもらえたので特に困ることは何も無かった。今回はケジャンを食べたり、地下鉄に乗ったりと前回はできなかった経験ができて寄航の満足度は高かった。また、船に帰る際に、クルーズそのものを目印にして帰ることができ、クルーズ船の大きさを改めて感じた。
4. 日本語対応が可能なスタッフが釜山に非常に多く全体的にととてもスムーズであった。また釜山では国際市場の方が非常に優しく、サービスなどもしていただいた。地下鉄に乗ったのですが、外国の雰囲気を楽しむことが出来、短い観光時間であったものの海外旅行をしたという気持ちになることが出来た。



5. 下船時は、韓国の匂いがするなあとと思った。港に関しては予想以上に広く感じた。寄港地としての魅力としては、港の近くに大きな市場や繁華街があるため短時間でも楽しめること、また山の多い地形であるので少し歩けば自然豊かなまた市街地とは違う魅力を味わえることであると思う。
6. 釜山市内はほとんど日本とあまり変わらないように感じる。さらに国際市場は観光をするにはいいが、食事をするには衛生的に不安な店が大半だった。またお土産として適切なものがなかったもので、港で「これが釜山名物のお土産ですよ」と売られていたらそれを買いたい。（そのつもりだった）
7. 乗船後のバスの案内が分かりやすく、ガイドさんの日本語が堪能だったので安心だった。物価が安くて食べ歩き、飲み歩きが気軽にできて楽しい。自分が思っていたより無料wifiが飛んでいるのでその場での情報収集も出来る。海鮮料理がとても安くて量もあった。
8. 釜山の下船時の対応は問題なかったと思う。クルーズ内であってほしかった設備としては円、ウォン、ドルなどの両替設備である。釜山に降りた時、初めに探したのが両替だったのでその時間が短縮できたらいい。釜山では様々なものを食べ歩きさせて頂き、非常に楽しかった。
9. クルーズ船から降りたときに何も歓迎イベントのようなものをやっていなくて少し寂しい感じがした。釜山は港町ということで国際市場をはじめとする色々な場所でおいしい海鮮料理を食べられるのが魅力だと思った。
10. 下船時に、クルーズ船を見て、改めて大きな船に乗っているのだと実感した。横浜よりも近くでクルーズ船を見れたので嬉しかった。
11. 港でもう少し船に近づいて写真を撮りたいと思った。大



勢の客を素早くさばいてバスの中へ案内してもらったことに感心した。

12. 短時間ではあったが、美味しい海産物や観光地を訪れることができ、とても楽しかった。しかし、移動時間に余裕を持たせるとお土産の購入に時間が取れなかったため、寄港地の近くにもお土産屋さんなどがもっとあると、利用者が下船時間を最大限活用できるのではないかと感じた。
13. 下船後シャトルバスに乗ったガイドの方が日本語で話してくださりとてもうれしく感じた。また、日本ではあまり食べられないようなスープやご飯を食べることができた。市場にも足を運んだ。活気があり様々な種類のものを売っており、見えて退屈はしなかった。

(3) 清水港の感想（乗船下船時対応の感想、港施設・博物館見学、寄港地の魅力）

1. 博物館見学では清水の地における鈴与の存在の大きさの一端を垣間見る事ができ、港の施設では清水港の方から清水港に関する貴重な情報を伺えた上につまらない質問にもしっかりお答えいただけてありがたかった。寄港地としては、港の周りが工業地帯であったり閑散としていたりする港もある中で、港のすぐ近くにエスパルスドリームプラザがあり買い物や食事に困らない点が、アピールポイントになり得ると感じた。
2. 清水港は2回目だが、ショッピングモールに歩いていけるのはクルーズ客にとって便利だと思う。富士山を望む景観は魅力的だが天気は左右されそう。歴史が好きなので、博物館での丁寧な説明が非常に楽しめた。個人的に、今回のような博物館で地元の歴史を知れるプランがあれば各寄港地で毎回参加したいと思う。
3. 港に近づくとつれ、富士山が見えてきたが、天気があまりよくなかったのが残念。博物館を解説つきで回ることができたのはとても良かった。普段の生活では知ることのない地方の港の発展を知ることができたのはとても新鮮だった。また、港の近くにエスパルスドリームプラザがあり、海鮮を楽しむことができるのは魅力的。花火が急に始まったのは残念。
4. 朝のバスケの時に富士山が見え清水に近づいてきたという実感が強まった。港から近い位置に観光地があり、短い時間であっても楽しめた。出航時の花火の情報が広く伝わっている感覚がなかったので、船と港湾の連携がもう少しあればいいのではないかと思った。寿司ミュージアムは規模は小さいものの勉強になることなどが多く楽しめた。



5. 下船時には、港が非常に整備されているという感想を抱いた。観覧車やフェスの光景も見えて賑わっている港であると感じた。また港の色使いが良いと感じた。博物館では清水港の歴史について学び非常に興味深かった。建物自体もレトロな感じで女の子が喜びそうだなと思った。寄港地の魅力としてはお土産が豊富であること・海鮮が有名なこと・富士山が見えることだと思う。これは日本人のみならず外国人の方にとっても非常に魅力的であると思う。



6. クルージングでなければ自分は立ち寄らない土地だと思う。一番感動したのは、清水市の地元の方が「この船すごいねー、船内はこんな風になっているんだ。いつか乗ってみたいな」と話していたり、小さい子供が写真を撮っていたりしたのを見て、実際に乗船している自分が誇らしく思えたり、地域の活気につながっていると感じた。



7. フェルケール博物館は見ごたえがとてもあり、時間が限られていなければもっと長く見学したかった。清水港は、エスパルスドリームプラザが近くにあるのが良い。また、その中での寿司ミュージアムも入場料が安い割に見るところが多く楽しかった。

8. 清水の下船時の対応は問題なかった。日本人である我々の感想を述べても仕方ないが、やはりクルーズであるのだから外国人への対応を意識すべきだと思う。外国人向けの標識や外国語の徹底など、した方がいいことは沢山あるので頑張って欲しい。

9. クルーズ船から降りたときに歓迎イベントが行われていたりたくさん屋台が出店されたりしていて温かく迎え入れられた感じがしてうれしかった。港からとてもきれいに富士山が見えることや寿司がおいしいことが清水港の魅力だと思った。

10. ダンスなどのパフォーマンスを船上から見た。これは他の寄港地ではなかったのでおもしろかった。

11. 港近くで楽しめるスポットがあまりないと感じた

12. 東京から比較的近い場所ではあったが、陸から行くのとはまた異なる感覚があった。また、下船時にはお祭りの関係で沢山の屋台が出ており、地元ならではの食も楽しめた。港施設や博物館においては、普段行く機会も少ないので、知識面の学びもあり、有意義な下船であった。

13. 降りた時から活気ある港だと肌で感じた。港の周りにはお土産を売っており、旅の帰りにお土産を買うことも可能でとても助かった。博物館では日本史で出てきたような有名なものを始めとした船の歴史や、缶詰のラベルの歴史について学ぶことができた。船の仕組みが模型なのにとっても細かく再現されており驚いた。寄港地としても魅力的で、特に新鮮な海鮮や抹茶のお菓子など、食の魅力が強く印象に残った。



第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー>

(1) 学生提言：事前準備から、発表までの感想、大学間交流としての意義

1. グループリーダーとして提言プレゼンに臨むのが2回目という事で、メンバーの意見をまとめずに組み合わせるだけで済ませてしまった前回の反省を生かし、メンバーの意見の取舍選択を心掛けて行った。少人数グループだった事もあり、意見の集約や仕事の分担などはスムーズに行う事が出来たと思う。学んでいる内容も住んでいる場所も全く異なるメンバーと共に1つのプレゼンを作り上げる事は、自分の大学の中だけではなかなか体験できない事であるため、貴重な経験になったと感じている。
2. 乗船前から1つの課題に取り組み交流したおかげで、乗船して他大学の人ともすぐに打ち解けることができた。今回は、メンバーが全員東京在住だったので、事前の打ち合わせもやりやすかった。課題のことから話題も発展することもあった。
3. 課題が提示された段階で各班に与えられた港が異なるのは面白いと思った。事前準備では、酒田という知らない土地を調べるのに苦戦したが、班員と酒田の観光スポットを調べたり、そのスポットをどうすれば効率よく回ることを調べるうちに、酒田が抱える観光地としての課題を発見することができた。
4. 自分たちのゼミ外の生徒との交流は非常に勉強になることが多いと感じた。普段のゼミなどにおいて考え方などがどうしても、ゼミ生だと似通ってきてしまうため、いい刺激となった。また前回のSCA生とも未だに交流があり、クルーズという密な時間を過ごせる空間における大学間交流は素晴らしいものであると実感している。
5. 事前準備に関しては爪が甘かったと思っている。1人1人で完全に分割して調べたため全体として繋がりが甘く、もう少し全体としてまとまりがある発表ができたのではないかという感想を抱いている。大学間交流の意義は大きいと考えていて、全くバックグラウンドが異なる人々と話せたので新鮮なことが多くとても良い刺激になった。非常に面白かった。
6. 「インスタ映え」というあまりにも流行に流されたテーマに若者の立場からすると寒く感じる。そういう流行に疎い行政の方からすると、貴重な意見なのかもしれないが、実際にインスタグラムをやっている私からすると、あまりそこは重要



ではない気がする。乗船中に「そんなにインスタ映えって大事？」と行政に聞かれたが、そこまで重要ではないと答えた。

7. 事前準備は、修士二年のリーダー（松田さん）が上手くまとめてくれたおかげでスムーズに発表内容がまとめられた印象。他大学と一緒に発表・クルーズにて行動は新鮮でとても楽しかった。
8. 事前準備については発表までに2,3回ぐらい集まった。話し合いはスムーズに進み、そこは班員に恵まれたと思います。しかし私自身班員任せにしてしまったところが多くあり、2,3回の話し合いをあまり生かせなかったのかなと思った。後半にやっつけでやってしまった部分がある。非常によくない。
9. 行ったことのない寄港地の観光プランや魅力ポイントを考えるのはとても難しかった。また、日本人目線で考えるだけでなく外国人が観光をするときにどのような問題があるのかを外国人目線で考えるのは普段持つことのない視点を身につけることができ勉強になった。
10. 一緒にプレゼンの準備を行い、プレゼン資料のクオリティの高さに驚いた。船上でも一緒にアクティビティを行ったり、仲良くできたので嬉しかった。
11. 班員が優秀でスライドの作り方やプレゼンのやり方においてたくさんのことを学ぶことができ良かった。
12. 事前準備においては、直接会って作業する機会が少なく、SNSを通してでのやり取りでも、もっと詰めることができたと思う部分が多く感じた。また、今回求められている意図をしっかりと考えることで、よりニーズに合ったプレゼンを提供できたのではないかと感じる。良かった面としては、色んな考え方を持っている人と意見を交換することで、新しいアイデアを生み出す楽しさも改めて実感できた。
13. 事前準備では、先輩や同期のレベルの高さに驚かされた。発表内容を決める際に、他大の方々は徹底的に根拠を用意し内容を組み立てていった。私一人であればここまで詰めていかないだろうという点まで細かく詰めて頂いた。この事前準備を通し、他大の学生と交流が深まっただけでなく、今までの自分のプレゼンは根拠の薄いプレゼンになってしまっていたと知ることができた。



(2) 学生提言「クルーズで訪れる！ 日本の港の過ごし方」についての感想(各班の発表を聞いての感想)

1. 各班趣向を凝らしたスライドを作成していて素晴らしいと感じたが、提案するプ

ランについては自分の班も含めて目新しいものは無かったというのが正直な感想である。隠れた観光スポットを探し出したりなど斬新な事をするのは難しいのだなど改めて感じた。

2. 過去2回や同窓会での発表に比べ、取り組みやすい内容だった。ただ、その分提案の内容が根拠に乏しい思いつきで終わってしまったように思う。観光客にSNSでのポジティブな発信をしてもらうにはどうすれば良いかという問題についてもっと掘り下げてみたかった。

3. どの班もプランが具体的でそのプランで回ってみたいと思える発表であったとは感じた。しかし、クルーズに乗船していた老夫婦にお話をうかがったときに、寄港地のプランはなにもないと言っておられたし、自分たちもそんなに具体的なプランを立てていたわけではなかったの、クルーズに乗船した



ときの観光プランは実はそれほど具体的である必要もないのかなというのが、率直な感想。クルーズの乗船客の一番の目的が、船を楽しむことであるならば、乗客が「寄港地ではじっくりとしたプランで楽しんで残りの時間は船でゆっくり過ごせばいいか」と考えられるのが実はクルーズでの旅行の魅力の一つなのではないかと感じたし、実際そうしている乗船客も多いように思う。

4. どの班もさまざまな視点から考えており勉強になった。しかしながら、多くの班が触れていたWiFiなど自分たちが旅行に行くとき事前に調べるかといわれると調べないのではないかというのが率直な感想である。自治体の特性上固有の企業などは、紹介できないということを知ったが、実際に自分たちが公共で利用するのはカフェなどの企業が提供しているものであるの、旅行者が自治体にWiFiなどの情報を求めているのではないかと思う。同様に、観光プランも自治体では調べたことがなく、調べるとしても観光サイト、雑誌などであるので、観光客が自治体にどのような情報を求めているのか改めて考える必要があるのではないかと思った。
5. それぞれの寄港地によって、観光資源が港の周りにあったり、逆に離れたところにあるというのは発表を聞いて初めて気づいた。それによって色々回るか、どんと大きな観光地に行くか異なるんだなと思いながら聞いていた。みなさん興味深い発表だった。
6. 自分たちの班に関して言えば、内容と発表態度が一番だった自信がある。しかし、逆に単調すぎてしまい、ずっと「なんだか凄い」発表になってしまったのではない

いかと反省している。どこか1つでも自治体の方の目を引く提案をする。インパクトを残すという部分にかけていたかなと思う。

7. まず今回ご一緒させていただいた創価大の人の発表が皆ハキハキしたスピーチだったので、見習いたいと思った。今回の発表に関しては、テーマやアピールポイントに似通った部分が現れたことが興味深かった。アプローチや発表の流れは三者三様で今後の発表の方法で学ぶところがたくさんあった。
8. 他の班と比べるともっとできることはあったのだと反省しています。私たちはプランの若者らしさを盛りこんで提案したが、複数のプランをタイプごとに提案したり、また、地域の問題点とその解決策をしっかりと考えた上でその地域らしさを盛り込んだプランだったり、本当に様々で勉強させて頂きました。
9. どの班もしっかり案を練って観光プランを考えていて、提案された観光プランで寄港地を観光したいと思える魅力的なプレゼンだった。行ったことのある場所でもその寄港地の魅力の再発見があった。
10. 各班のコース提案が全て訪れてみたいと感じるプレゼンだった。どの班もしっかりとリサーチされていた。
11. どの班もスライドがきれいだと感じた
12. 発表においては大きなトラブルもなく終わることができて一安心した。質疑応答に関しては、私一人の意見が集中してしまったので、もっと周りを見る余裕を持っていかなければいけないと反省した。他グループの発表を聞いても、学ぶことが非常に多く、発表内容やプレゼンの仕方など、是非今後活かしていきたい。
13. 各班のプレゼンテーションはとてクオリティーの高いもので学ぶものが多かった。私はパワーポイントの使い方が余り得意ではないが、今回のプレゼンテーションを拝見したおかげで、今後のプレゼンテーションをする際のパワーポイントの使い方の幅を広げられたように感じた。特に金沢港班のように、様々なパターンを織り込んだプレゼンテーションをできるようになりたいと思う。



(3) クルーズ活性化会議プレゼン「クルーズ船誘致と地域活性化」・パネル討論の感想

1. 日本各地の港についての情報を1度で聞ける機会はそうそう無いので濃密な時間だった。各港で精力的な誘致活動をしているだけに、国内でパイの食い合いにならないか、それが対船会社に対する交渉の際に港側の立場を弱くしていないかが、少し心配になった。パネル討論自体の感想では無いが、最後の夜に港湾の方々も

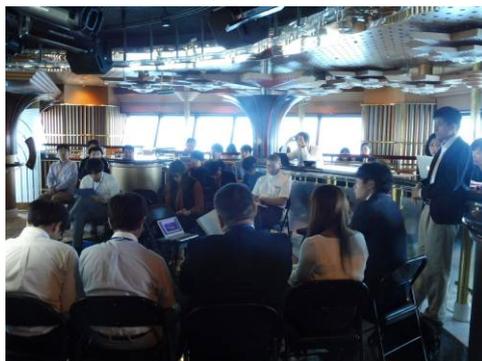
交えてお話をした際に、パネル討論の際質疑応答の時間が短くあまり答えを聞くことができなかった質問に対して名古屋港の方が丁寧に答えて下さって、非常に嬉しかったし勉強になった。

2. 各自治体のクルーズ受け入れの成熟度合いによって抱えている問題に違いがあることを再確認した。なんとなく感じたことだが、昨年と比べ自治体の方々のクルーズ受け入れに対する姿勢が前向きになっているように思えた。この1年で新聞やTV番組でクルーズのことが取り上げられる機会が増え、少しずつクルーズの認知度が高まっていることがポジティブに影響しているのかもしれない。
3. クルーズという一つの題材でも各自治体が抱える悩みが多種多様であるのはとても興味深かった。今回の自治体の方からの話で印象に残ったのは、シャトルバスにかかる費用が予算を超えそうだという話。寄港地でのインバウンドを期待してクルーズ船の誘致を行っているのだと思うが、経済効果が数値として実感しにくいのに対し、かかる費用は容易に数値として把握できる分、悩みの種になりやすいのだろうと感じた。
4. 各港湾の抱えている問題が異なっているのが興味深かった。博多港のケースのように船が来てもいいことばかりではないということに、成長、創成期の港湾も留意して今後の誘致を行わないと、対策が後手後手に回ってしまうと思った。しかしながら、自治体という特性上財源が税金であるのでまだ発生していない問題に先手をうつことは難しい側面もあるのだろうとも思った。
5. 資料やプレゼン内容が凝縮されていて聞き応えがあった。港という観点をここで初めて持てた気がする。寄港地に創世記・成長期・成熟期がありそれぞれ抱えている課題が異なるというのがとても新鮮であった。パネル討論は時間が10分という短いものであったので、もう少し聞きたいなと思った。
6. このクルーズアカデミーのテーマにもなっているのだと思うが、自治体の方からするとクルーズ船が来ると地域が活気づくということが、特に酒田港、清水港の人からはそれを感じる。また、和歌山港の方の発表が印象に残っており、和歌山は空路でも陸路でもアクセスが悪いので、クルーズ船が観光の要である、というのは納得である。
7. 各港で抱えている問題が規模によって全然異なることに驚いた。また、クルーズの豪華なイメージがあったので、クルーズ誘致にはお金がかかっていると思ったが、ボランティアで「おもてなし」を行うことや、スーパーに無料のシャトルバスを出してもらうことなど、なるべくお金をかけないように工夫していることに



驚いた。

8. 自治体の発表においてもその港ならではの視点、問題点があつてそれらを様々な立場が議論するのは素晴らしい場だと思う。少し時間が足りなかった部分もあると思うのでそこも含めて次回は時間を多めにとつたうえで議論を重ねてもらいたい。
9. 創成期・成長期・成熟期と異なる段階にある様々な港がそれぞれどのような課題を抱えているのかに関して、自分で調べた範囲では分からず港湾関係者の話を聞いて初めて知ることがたくさんあつて新鮮で興味深く感じた。
10. ハード面など、乗客としてクルーズ船に乗っていると問題に感じなかったことについてプレゼンして頂いたので、新しい観点を得ることができた。
11. 話の内容は理解できなかった部分もあつたが、自分の担当する港への熱意はとても伝わってきた
12. 自治体の方々がどのような思いで港の発展を支え、どのような施策を練っているのかを知ることができ、とても港事業への関心を高めることができた。また、同じ情報であっても本で読むのと、実際に働かれている人の生の声を伺うのでは、理解の度合いや感じるものが異なると感じた。これからも、あらゆる分野への関心を絶やさず、自分の足で情報収集していきたい。
13. 最初に寄港地を三段階に分けて頂いたので、とても話が分かりやすかつた。段階ごとに注目して話を伺っていると、それぞれの段階にも課題がある。しかし、それぞれの港が課題に対しての対策を用意していた。またクルーズ経済効果についての質問をした際に的確な返答をしてくださりクルーズ船の影響力を理解することができた。



(4) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治体との交流会、スポーツACTIVITY大会、フォーマルナイト、夜の交流会など)について)の感想と今後の要望

1. 普段の学生生活ではなかなか体験する事が出来ない内容が盛りだくさんであるため、非常に貴重な体験であると共にとても刺激的であつた。今回はご厚意で用意していただける客室数の都合もあつたと思うが、今後は2大学だけでなくもっと多くの大学の参加があり、多様な交流ができるとより良い体験になると思う。
2. 自治体の方々とテーブルを囲んでじっくりと話せる機会が多く設けられていて、そういった場でディスカッションでは聞きづらいことも質問でき勉強になつ

た。スポーツACTIVITY大会は学生の体力不足が原因で、かなり緩い雰囲気だった。

3. まず、学生提言が2日目だったのは学生全員がうれしく思ったと思う。やはり、学生にとっての唯一と言って良い不安要素である提言大会は早めに終わらせてクルーズを楽しむことだけに集中できるスケジュールはとてもありがたかった。やはり、今年は寄港地が少なかった分、団体行動がなく他の大学や自治体の方との交流が少なかった。
4. 寄港地がすくなかったため、今回は団体で動くことより、少数で動くことが多かったように思える。そのため少し、自治体の方や他大学の方との交流が少なかったように感じた。しかしながら、最終日の夜には交流会の時間を設けていただけ、様々な話が出来よかった。
5. 学生同士も自治体の方々とも仲良くなれ率直に物事が言えるようになったので非常にためになった。学生提言大会と自治体との交流会に関しては、厳しいかもしれないがもう少し時間を延ばしてもらえるとより内容が深まったのではないかと思う。
6. もう少し、自分が発表した港の方とお話しがしたかった。提言のために調べた知識があるので、より観光・港湾について話をする時間があるとよい。「発表では〇〇と言ってたけど、実態としては××で」など深いフィードバックがもらえるかもしれないので。
7. 最初のうちは、非日常な世界になれるのに時間がかかったが、様々なイベントに加え、赤井先生がおすすめるイベントを指定してくださったおかげで、クルーズを楽しむ雰囲気になじめて、また行きたいと心から思った。
8. 普段交流を持つことのできない他大学や自治体の方々との交流はとても新鮮でした。フォーマルナイトや交流会ははじめての経験でしたが、思いのほか楽しめてよかった。今回自治体の方とどうしても壁を感じてしまい、あまり話しかけることができなかったので積極的に次回は話しかけていきたい。
9. 飛行機や新幹線で観光地へ行ったときの観光プランを考えたことはあったが、クルーズでの寄港地を中心とする観光プランを考えたことはなかったので、新しい視点から観光について考えることができ、ためになる課題発表だった。
10. フォーマルナイトでは、初めてシャンパンタワーを見ただけでなく、キャプテンとシャンパンタワーにシャンパンを注いだことが嬉しかった。
11. どれも充実した内容で、本当に大満足だった。特にフォーマルナイトでは、シャンパンタワーのイベントなど、普段ではなかなか味わうことのできない貴重な体験をすることができ、ここに来て良かったと心から思うことができた。自治体



の方々や先生方の中であまり交流できなかった方がいたため、その方とさらに交流したかった。そのため、例えば1~2回くらいは食事席を事前に決めといて、いつもとは少し違う人と食事をとれるようにする等、交流の場をもう少し増やしてほしいと思った。

12. 最初は研修ということで少し身構えていたが、社会人の方々や他大学の方々とこれほど多岐に渡って深い話ができ、私にとっての一番の収穫である。もし可能であるならば、パネルディスカッションや学生発表の後、自治体や学生の垣根を越えて、より深いディスカッションをしてみたい。

13. 今回のスマートクルーズアカデミーでは、カジノやクラブ、ダンスパーティーといった参加する前には想像もできないくらい素晴らしい経験ができた。また、朝のジョギングや、バスケットボールは適度な運動になっただけでなく、学生、また先生方との距離を縮められたように感じとてもうれしく感じた。夜の交流会で



は、いろいろな方々から話を伺うことができ、自分の中の価値観を変えるだけでなく視野を広げることができた。今後は、このクルージングで経験した事を社会人になっても活かし、結果を残せるようになりたいと思う。

第5部 <地域活性化・クルーズ振興>

(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想(国・自治体政策のあり方など)

1. 港湾の方のお話を伺ったり実際に寄港地に降りてみたりする中で、確かにクルーズ客船誘致は地域活性化に繋がると感じた。ただ、誘致合戦になって各港湾が疲弊する所まで行ってしまうと問題なので、もし過度な誘致合戦が起こるようであれば、国が重点港湾などの制度を用いてある程度の選別を行う必要があるだろう。頑張っただけで誘致に取り組む各港湾の事を考えると残酷な話かもしれないが、残酷な話だからこそ国がリーダーシップを取って動かないと誘致合戦は終わらないと思われる。
2. クルーズ受け入れに対する問題を前向きに解決していこうとする雰囲気を感じた。なんとなく感じていることだが、地域間の連携が不十分なままのように思えるので、ナレッジ面・資金面の両方を中立的な立場で支援する存在が必要かもしれない。
3. 経済効果や寄港地の認知度の高まりなどを考えると各自治体がクルーズ誘致に躍起になるのはよく分かるし、実際に3回クルーズに乗船してみて各寄港地の盛り上がり方を実感することもできた。現在のクルーズ需要の高まりを考えれば、ある程度無理をしてでもクルーズを誘致することはその自治体、ひいては日本への貢献になっていると思う。しかし、需要の伸びが鈍化しパイが固まってきたときに、そのパイを奪い合うような誘致合戦が繰り返されるのは非効率である。そのようなときには、国全体のことを考えると、人流・物流の役割分担ができるような制度設計が必要となる。
4. 自治体の今後としては、港の設備面の充実はもちろんのこと、地元の商店に金をおとしてもらえるような仕組み作りが重要であるという印象を受けた。地元の商店などは、クルーズ客についての知識などが無いため、自治体は地元でクルーズ旅行がどのような性質があるのかなどの勉強会を積極的に行うことが重要であると思った。
5. クルーズ客船誘致で実際にどのくらい地域にお金落ちるのかはわかっていないとおっしゃっていたので難しいとは思いますが、実際に金額ベースで出せるとさらに自治体の上の方にも納得してもらえるのではないかと感じた。国・自治体としても



地域活性化を国内だけで行うのは非常に難しいと思うので、クルーズ客船誘致というインバウンドの力を借りていくのは非常に良いアイデアであるしど、んどん推し進めていくといいと思う。

6. 恐らくもうすでに言われていることではあると思うがお金を持っている層がなかなか足の運ぶことのない地域に行くことによってが経済が循環することであると考える。
7. 自治体の人たちの努力でクルーズが誘致できたとしても、地域の人達にとって直接的には旨みが見えにくい状況である印象を持ったので、自治体の人たちは地域の人達と協力して盛り上げる役割も必要なのかと、大変さを感じた。
8. クルーズ振興において港湾側とクルーズ側の関係はウィンウィンで互いにメリットを持っているが、港湾側が考えるのはそのクルーズを足掛かりにしてどのようにしてその地域の魅力を広めていくか、クルーズで訪れるからついでに…ではなく、この港湾だからこそと思わせる何かが必要なのだと思う。
9. クルーズ船を誘致することで、クルーズ船で寄港地に来た人が食事やお土産のためにお金を消費したり寄港地の人にクルーズ船に乗りたいと思わせたりして経済が活性化されるので、クルーズ船の誘致はとても社会的意義の高いことなのだと分かった。
10. ステージごとに港湾の役割は変化するというを知り、地域住民の理解や連携が重要であると感じた。地域住民と共同でクルーズ誘致を進めることが大切であると考える。
11. 地域や港湾を活性化させるためにクルーズを誘致することは一つの大きな手段だと感じた。自治体の方々が熱を持って誘致に取り組んでいることが伝わってきたため、今後も頑張っって欲しいと思った。
12. クルーズによる地方活性化は、島国である日本ならではの施策であると感じた。一方で、金沢港など観光客数が多くてもお金が落ちていない実情など、各々の港が異なる課題を抱えていることを知り、多角的なアプローチが必要であると学んだ。
13. クルーズ船の誘致は地域を活性化することにつながることはわかった。しかし、それは港湾の準備が整っている場合に限るのではなかと考える。例えば、寄港地がWi-Fiや交通網の対応がおろそかになっていけば、特に外国人クルーズ客は船から降りない可能性さえある。なので、クルーズ客の多くが外国人であることを鑑みれば、各港おそらく魅力はあると思われるので、自治体の方々がすべき対策



はWi-Fiや交通インフラなどの外国人が困ると思われる点への対策が必要だと考える。

(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにむけての若い世代からの視点)

1. 海に囲まれた島国である日本にとっては、数多くある港湾を観光資源として生かす事が出来るクルーズ船を呼び込む事は意義のある事だと思う。もし日本人、とりわけ若者の乗客を増やしたいのであれば、食費・交通費・宿代全て加味した上での他交通手段によるプランとの料金比較などを提示する事で、クルーズ旅行が決して雲の上の存在ではない事を認知させる必要があると感じる。
2. 経済効果と雇用創出効果を多方面に波及させられることに社会的意義があると思う。以前、クルーズが取り上げられた番組に対するネット上のリアルタイムの反応は「意外と安くて、楽しそう」というものが多かった。私の友人も興味深そうにクルーズの体験談を聞いてくるし、潜在的なニーズはまだまだ掘り起こしていけそうだ。ただ、若年層は趣味・嗜好が多様化しており、単純な認知拡大だけでは不十分だと思う。

3. 昨年のプレゼンの時にも挙げたが、私はクルーズの社会的意義は大きく分けて、1：地域活性化、経済効果、2：非日常の体験による余暇の充実、3：人流であると考えている。クルーズ乗船客も順調に増えていることから、クルーズの社会的意義はより一層増していくと考えるが、今回の乗船客を見渡してみても高齢者が相



当数を占めていたことから、社会人や学生の利用が増えることでクルーズはより一層盛り上がるのだろうが、社会人や若者がクルーズに乗船するのが当たり前になるには、カジュアル船はそこまで敷居が高くないという認知の壁、そもそもクルーズに乗船するだけの休暇が取れるかどうかの社会的な壁を乗り越えなければならない。後者は、すぐに変えられるものではないかもしれないが、前者は工夫次第ではどうにでもなる。今年の一月のシンポジウムではクルーズそのものの認知度を問題視し、クルーズを知ってもらうための策を提案したが、ここ数ヶ月でテレビでのクルーズの露出は確実に増えており、クルーズの認知度は大きくなっているように感じる。ただし、気をつけなければならないのは、クルーズのメディアでの取り上げられ方であり、クルーズを取り上げる番組の中では、「高級」「豪華」「金持ち」などがキーワードになっている番組も少なくない。そのような取り上げられ方をされているうちは、やはり若者のクルーズ需要を掘り起

こすことはできない。船は「豪華」だけど、「手ごろな」価格で楽しめるという
ような取り上げられ方をされれば、多少なりとも若者からの需要も生まれてくる
のではないかと考える。

4. 友人などにクルーズの話をするとう金額について聞かれることが多く、クルーズ=
高いものというイメージが根付いているのであると思う。実際には移動費、宿泊
費、食費などなどすべてが含まれているのでトータルで見た時のコスト面では素
晴らしいと思う。TVなどでの露出が増えてきてはいるが、その多くは豪華さを伝
えるものばかりに感じるため、若者には壁を作っているのではないかと思う。若
者の需要拡大をねらうのであるのなら、TVなどでもコスト面のアピール（ほかの
交通手段による旅行との比較など）が有効であると考え。
5. クルーズは日本という海に囲まれた国だからこそできる地域活性化であると思う。
外国人にまずはクルーズで来てもらい、たくさんの寄港地に寄って日本の魅力を
味わってもらい、次に旅行で来てもらう。これは日本のあまり知られていない場
所への旅行の第一歩になるのかもしれないと思う。ニーズの掘り起こしは、自治
体の方の話を聞いていると日本の寄港地の人気は高まっていると感じたので、い
かに楽しんでもらえるプランを作れるかにかかっていると思う。

6. 若者視点からのクルーズニーズの掘り
起こしの提案として、ずっと言いたか
ったことがある。クルーズの設備を見
ていると、ショーのできるホール、大
勢で踊れるプールサイド、クラブ、バ
ーがあるので、中型の音楽フェスに必
要な設備が全部そろっている。音楽フ
ェスに行く若者は高校生・大学生でお
金がなく、カッコいい人気ロックバンド



をたくさん呼ぶ必要があるという大きなイメージを持つかもしれない。しかし、
一番私が最適だと思うのは「SYNCRONICITY FESTIVAL」のような内容で、客層とし
ては20代前半～30代と割と大人向けで、内容はジャズ、クラシック、HIPHOP、
インディーズバンドでキャパ80人～1000人弱の小中のライブハウスで行う。ぜひ
クルージング船で週末に音楽フェスをすればそれまでクルーズに興味のない層が
クルーズを体験できると思う。

7. やはり値段が高くつつきづらいイメージがあるので、日本の港に寄る場所を少
し増やし、途中下船有りのフェリーとしての利用手段（遠距離の旅行の移動手段
に使ってもらおう）もかねて、ついでにクルージングを体験してもらおうにする
とよいのではないかと思った。
8. ゼミ関係で私は今回参加できたが、クルーズのターゲット層としてはやはり富裕

層になってしまうのが現実かもしれない。若者がクルーズに乗るにはそれこそこういうスクール企画か、クルーズそのもののランクを下げた格安プランを提供してとりあえずクルーズに触れる機会を設けることが重要である。

9. 旅行に行くときは飛行機や新幹線で行くのが自分みたいな若い世代にとっては主流でありクルーズはあまり認知されていないので、例えば大学生に対してクルーズを推すならば生協を通してクルーズで旅行することの魅力をもっと理解してもらおうようにしていくべきだと思う。

10. クルーズによる寄港地の経済効果は大きいと感じる。また、非日常的な経験から再度クルーズ船に乗りたいと思えるため、若い時からクルーズ船に乗ることで働く上でのモチベーションや人生における楽しみに大きな影響を与えると感じる。

11. こういう楽しみ方もある、普段では味わえない息抜きとして良い経験になると思うし、一回乗ったらまた乗りたいくなるような内容だと思うそのためクルーズ振興については、もっとクルーズ中のイベントや食事や船内風景などをしっかり宣伝していかないと素晴らしいかを伝えるべきだと思う。



12. どうしても旅行となると、利便性の高い飛行機や鉄道に意識が行きがちな消費者視点も、自治体の視点のみならず、民間企業などとも協力しクルーズの魅力を伝え、体験してもらうことで、少しずつでも変えていけるのではないかと思う。また実際に今回体験し、クルーズ乗船時の手軽さなど、年配の方々に向いている旅行形式であると感じた。高齢化の進む日本で実践できるビジネスだと感じている。

13. クルーズに乗れる人の条件としてよく耳にするのが、「自由に使えるお金が多くある」、「長期的な休暇が取得できる」という二点である。個人的には学生もこの条件を満たしているように感じる。卒業旅行などに海外旅行を選ぶ学生が多いが、今回乗船したダイヤモンドプリンセス号ならば、プランにもよるかもしれないが、海外旅行とさほど変わらない値段で楽しめるのではないだろうか。しかし多くの学生がクルーズ船に乗るためには大金が必要だと考えている。そこで私は、大学の生協などを経由してクルージングを紹介してみてもどうかと考える。これは私の肌感にはなってしまうが多くの学生が旅行を計画する際に、大学の生協を利用しているように感じる。そして、その生協の中にあるプランから行きたい場所を選び旅行を楽しんでいるように感じる。ならば、もし生協の中にクルージングがあれば学生だとしてもクルージングを身近に感じる事ができクルーズに乗る際のハードルを下げる事が出来るのではないだろうか。

(3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想

1. スマートクルーズアカデミーの一員としてクルーズ船に乗船するのは恐らく今回が最後だが、最後のクルーズもしっかりと楽しみ学べたと感じている。これから人生のどこかでクルーズや港湾に関する話に巡り合った際に、3回のクルーズ船乗船で得た知識を生かしたい。
2. 3回クルーズに乗せていただいたが、いずれも非日常を楽しめ自分の世界が広がったし、良いリフレッシュになって日常にも好影響があった。学生としてアカデミーに参加するのはこれで最後になりそうだが、うまく時間を作ってプライベートでもクルーズを楽しめる社会人になりたいと思う。ただ、今回は学生は東工大が過半数を占めており、内輪だけで盛り上がってしまった部分があったのは失敗だったかもしれない。
3. 今回のクルーズはおそらく学生生活で最後のクルーズになるだろうが、社会人になってもクルーズに乗りたい。ただ、そう思う一方で、やはり社会人になったら休暇が取れずクルーズに乗る時間など無いのだろうとも思っている。私のような、クルーズに「乗りたいけど（時間的、金銭的に）乗れない」人が気兼ねなくクルーズに乗ることができる未来が来ることを切に願うばかりである。
4. 非日常を満喫できとてもよかった。二回目ということもあり施設の距離感などがわかっていたので、スムーズに行動できたと思う。心残りであるのは船主催の参加型のイベント(ワインテイスティングやダンスの練習会)に参加することが出来なかったので、次の機会があれば積極的に参加し、ほかの乗船客などとの交流などもしてみたいと思う。
5. 毎日新しいことを経験できて非常に楽しかった。乗客やクルーの方から話しかけられることが多く、よく話した6日間だったと思う。将来はこういう貴重な機会を若い人に与えられるような人になりたいと思った。クルーズ船誘致の歴史を伺い、ある道の第一人者になりたいという思いが一番強く残った。
6. 先述の通り、せっかく参加された自治体の港をテーマに発表させていただいたので、発表があった2日目、4日目のディナーは発表班+自治体の方とするだけでもっと学生と自治体の方との距離が縮まり、有意義なアカデミーになったと考える。
7. 普段できないことばかりを体験できてとても楽しかった。しかし、すべての施設を利用できたわけじゃない点に関しては少し後悔している。将来は、個人的にまたクルーズに参加してみたいという気持ちがとても強くなった。



8. 今回のクルーズで得るものは多くありました。それらをこれからの研究で生かしていきたいです。また、マナー等がなってなかったり、失礼な行動をして関係者各位に迷惑をかけてしまった部分も個人的にはあって、次はこういうことがないようにしたい。
9. ショーやダンスなど様々なイベントを満喫できたが、プールやカジノなど使わなかった施設や行けなかったイベントもあるので、またクルーズに乗る機会があれば行けなかった施設やイベントに行ってみたいと思っている。
10. クルーズ旅行という概念がなかったが、今回の経験を通してクルーズの良さを感じた。再度乗船したいと感じるだけでなく、家族や友人にもクルーズ旅行を経験してほしいと思った。クルーズ船で、海外の友人ができたことも今回のクルーズ船で得た貴重な体験であった。
11. 大満足の6日間で、またこのクルーズに参加したいと思った。将来は家族や友達を連れていけるだけの余裕ができるよう、仕事にも精を出していこうと決意できた。
12. 総じて非常に学びの多い研修であった。就職先の職業柄、全ての業界の人々と関わる立場であるので、今回の学びをあらゆる角度に活かしていけるよう、この1週間の経験を更に深く自分の中でまとめていきたい。また、一顧客としても非常に楽しい時間を過ごせたので、将来両親を連れて戻って来られるよう頑張っていきたい。
13. クルーズ船の中には様々な施設があったが、恐らく半分も楽しめなかったのではないと思う。なので次回またクルーズ船に乗る機会があれば、案内を熟読し、計画的にクルーズ船内を楽しみたい。また、今回のクルージングで海外と国内のお土産品の違いのようなものを感じ取ることができたので、しっかりと将来の仕事に還元していこうと思う。



